

ノーテレビ・ノーゲームチャレンジ2010 取り組み発表 家族の会話が増え、生活リズムが改善!



市青少年育成市民の会では、「早寝・早起き・朝ごはん運動」の一環として、NPO法人福岡・津屋崎子ども劇場との共催で、夏休みと11月の2回、市内の保育所、幼稚園、小学校の子どもたちを対象に、ノーテレビ・ノーゲームチャレンジ2010を実施、昨年より307人多い1433人が参加しました。

この取り組みの目的は、テレビやゲームを否定することではありません。全ての子どもたちに、メディアと主体的に向き合い、メディアとの接触をコントロールできる力を育むことです。

①平日は、子どもが起きてから寝るまでテレビやゲームのスイッチを切る。②週に1日、曜日を決めて子どもが朝起きてから寝るまでテレビやゲームその他のスイッチを切る。③食事の時はテレビやゲームその他のスイッチを切る。など8つのメニューから家族で話し合って目標を決め、チャレンジしました。

子どもたちの感想で最も多かったのは「やればできると

やればできると思った

思った」「家族の会話が増えた」「宿題がはかどった」「本を読む時間が増えた」「いろいろな遊びができた」「ご飯がおいしく感じられた」でした。

保護者の感想は「家族の会話が増えた」「家族のふれあいや遊ぶ時間が増えた」「子どもを含め、家族のテレビ視聴時間が減った」「本を読む時間が増えた」「手伝いをするようになった」でした。生活リズムが改善したという感想もたくさんありました。

ノーテレビ・ノーゲームチャレンジは、家族の会話やふれあいを取り戻し、生活リズムを改善するばかりでなく、子どもの自己肯定感を育んでいるようです。



▲チャレンジカレンダー

問い合わせ

福津市
青少年育成市民の会
(市郷育推進課
津屋崎庁舎内)

☎52・5311



福岡小学校1年
田畑 昭規さん

また、福岡小学校1年生の田畑昭規さんは、なぜテレビなどを長く見ることが脳に良くないのかを自分なりに学んだことや、時間を決めてチャレンジしたことをユーモラスに発表しました。

福岡小学校2年生の今林美晴さんは、食事の時にはテレビを見ないことにチャレンジしたことや家族でおしゃべりしながら楽しく食事ができた体験を発表しました。

おめでとう! 県教育委員会賞入賞!



平成22年8月21日、「第32回少年の主張福岡県大会」が開催され県内の中学生が日頃考えていることや意見を発表しました。350人の応募作品の中から15人が出場し、津屋崎中学校3年の薄 郁未さんが「県教育委員会賞」を受賞しましたので、紹介します。

トイレから見る環境問題
津屋崎中学校3年
薄 郁未さん

私は昨年の夏、「子どもの森ワークキャンプ」というプロジェクトに参加し、タイへ行ききました。そこで過ごした五日間は本当になにもかもが「驚き」と「発見」でいっぱいでした。

空港を出てすぐに、日本とは違ったアジア独特の香りと風景が私達を出迎えてくれました。そこからバスに乗り、五、六時間ほどかけてラノーン県という所まで移動します。

途中いくつかの休憩所へ立ち寄ったのですが、そこで驚いたことがあります。トイレです。現在、日本の大部分で使用されている水洗トイレとは大きく異なり、手動式なのです。便器の横には溜められた水と手桶が置かれ、用事が済むと自分でくんで流します。一度で駄目なら二、三度繰り返し返すのですが、流れていく途中で詰まることのないようにと、使用したペーパーは、これも横に置かれたごみ箱の中に捨てます。トイレの中は強烈な臭いであふれ、日本のきれいなトイレに慣れている私達には辛くてたまりません。

そこでさらに、「マングローブリサーチセンター」という施設へ行き、マングローブや地球温暖化について学習しました。

「地球温暖化について考える」——これは、私たち誰もが耳にし、地球規模で考えられている問題でもあります。ですから、環境問題については自分の中でよく考えているつもりでも、たし、行動しているつもりでもありません。空き缶やペットボトルをリサイクルしたり、無駄な電気を消して水をこまめに止めたりして、日常の小さなことからでも地球を救えたらと思い行動してきました。今回のプロジェクトの後半では、メンバー全員と現地の人とが協力しながら実際にマングローブの一種であるオオバビルギなどの木を四百本以上植えるという活動をしてきたのです。

しかし、「何も知らなかった」。それが私の実感です。世界各地で異常気象が発生していること、そのため南極の水が少しずつ溶けていること、その結果海面が上昇し小さな島が沈んでいきつつあること、これらのことは知識としては知っていました。でも今回の体験

で自然と共に暮らすタイの方たちにとって、この問題は本当に深刻なものでもあると実感したのです。

小さな漁村でマングローブの木がたくさん伐採され、その影響で魚が獲れなくなっていたこと、津波がきた時マングローブの木がたくさんあれば被害がもつと抑えられていたことも知りました。日本はそんなタイを危険な状態にさせている国の一つなのです。日本のCO₂排出量はアメリカ、中国、そしてロシアに続き第四位です。つまり、「日本人一人一人の意識がCO₂排出量を減らすかぎを握っている」と言っても過言ではないのです。私たちは今すぐ、自分たちの生活を見直さなければなりません。自分たちが生活していく地球を私たち自身が危険な状態にしている、それをくい止められるのも悪化させるのも私たち次第だと思います。

先程のトイレの問題も文化の違いと言ってしまえばそれまでですが、日本があまりにも潔癖すぎるのかもしれない。最近トイレに入っただけでふたが開き、離れると自然に水が流れてふたも閉まるトイレがあります。

また、福岡小学校1年生の田畑昭規さんは、なぜテレビなどを長く見ることが脳に良くないのかを自分なりに学んだことや、時間を決めてチャレンジしたことをユーモラスに発表しました。

福岡小学校2年生の今林美晴さんは、食事の時にはテレビを見ないことにチャレンジしたことや家族でおしゃべりしながら楽しく食事ができた体験を発表しました。

(原文通りに掲載しています)